

### (3) 極小未熟児の就学前検診

研究協力者 諸 岡 啓 一  
協同研究者 有 本 潔 高 木 一 江


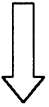
**A**  
平成5年度の健診は13名(男子6名、女児7名)について行った。  
表1に示すように、精神発達正常は8名、境界2名、精神遅滞3名であった。精神発達正常8名中、運動面については、正常3名、微細運動障害5名であった。同じく、精神発達正常8名中、神経心理学的側面(行動)については、正常4名、構音障害2名、視空間認知障害3名、聴覚認知障害2名、ADHD(注意集中困難・多動症候群)2名であった(一部重複あり)。以下、精神発達境界、精神遅滞については表1に示す通りである。  
運動面については、正常3名、微細運動障害9名、脳性麻痺1名であった。行動面(神経心理)については、正常4名、構音障害4名、視空間認知障害7名、聴覚認知障害7名、ADHD4名であった。

**B**  
各症例の診察、検査所見は表2に示す。  
表1に準じて、精神発達程度の順に示した。精神発達正常は症例1-8、境界は症例9、10、精神遅滞は症例11-13である。  
精神発達、運動面、行動面(神経心理)の全てに関して正常なものは、1名(症例1)であった。精神発達が正常で、運動面が正常な児は2名(症例2、3)あるが、それぞれ、構音障害、視空間認知障害、聴覚認知障害なども呈していた。精神発達が正常で、微細運動障害があるものは5名あり、うち2名で注意集中障害などを有していた。  
精神発達が境界の児は2名あり、ともに微細運動障害、聴覚認知障害などを呈していた。精神遅滞は3名で、うち2名は微細運動障害、1名は脳性麻痺を合併していた。  
以上より、今回作成したチェックリストによる診察ならびに発達検査では、高率に異常を見出した。このことから、極小未熟児に対しては、早期介入early interventionやリハビリテーションが必要であると考えられた。

表2 (1の3の表) 極小未熟児の就学前健診('94-03)

No	性:生:生:生	妊 歴	分 娩	胎前産後:出生体重:FOR	精神発達	運動	行動	視覚:RGT:Fro	聴覚:V:V:V:V	感覚障害	合併症	利手:利足		
1	女 87 3 10	中毒症、3Vよ	帝王切、脱水貯留	33 6 1278	SFD Norm	98 105 102	なし	Normal	優秀	6	なし	正常	なし	右 右 右
2	女 86 5 3	中毒症	帝王切、骨盤位	30 5 993	SFD Norm	90 102 96 90 87 89	なし	Dysarthria+	正常	7	なし	正常	なし	右 右 右
3	男 87 8 19	-	正常	31 1 1400	AFD Norm	87 119 105	なし	Visual+Audit	正常	9	なし	正常	喘息	右 右 右
4	女 86 1 11	腎盂腎炎(13V)	骨盤	27 2 837	AFD Norm	112 121 119	MinMotDist	Normal	遅れ	7	なし	正常	なし	左 左 左
5	女 86 3 28	-	正常	32 0 1132	SFD Norm		MinMotDist				なし	正常	内反尖足、VS	右 左 左
6	男 86 8 22	蛋白尿	正常	28 4 1216	AFD Norm	93 98 95	MinMotDist	Normal	優秀	2	なし	外科視:ope	なし	右 左 右
7	男 86 11 24	貧血、切迫早産	正常	29 4 908	SFD Norm	111 120 117	MinMotDist	ADD	正常	6	FC-S	正常	BPD→喘息	右 右 右
8	女 87 10 21	中毒症	帝王切	29 4 965	SFD Norm	93 89 92	MinMotDist	ADHD+Dysarthria+Audit+Sonato			FC-C	正常	なし	右 右 右
9	女 86 11 10	中毒症	帝王切、胎児仮死	36 6 1450	SFD Border	72 77 72	MinMotDist	Dysarthria+ Audit (片足立ちのみ)	遅れ	13	FC-C	正常	なし	右 右 右
10	男 87 12 18	高血圧	帝王切	35 1 953	SFD Border	73 72 70	MinMotDist	ADHD+ Visual+ Audit	正常	11	なし	正常	喘息、尿道下	右 右 左
11	男 87 3 22	悪阻	正常	31 4 1472	AFD MildMR	63 76 67	MinMotDist	Visual+ Audit +DSD+ADHD	正常	7	なし	遠視:ope	なし	右 右 右
12	男 87 3 30	切迫	正常	23 4 483	AFD MildMR	72 66 68	MinMotDist	ADHD+Dysarthria+ Visual+ Audit	遅れ		なし	内科視	BPD→喘息、中耳炎	左 左 両足
13	女 88 3 2	貧血、感染	正常	25 0 763	AFD MildMR	59 82 69	CP(rigospastic dipregia)	Visual+ Audit	正常	13	なし	正常	なし	右 右 右

Norm 正常                      Disarth 構音障害                      ADD 注意集中障害  
MinMotDist 微細運動障害                      Visual 視覚認知障害                      ADHD 注意集中・多動障害  
CP 脳性麻痺                      Audit 聴覚認知障害

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用   
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

A

平成5年度の健診は13名(男子6名、女児7名)について行った。表1に示すように、精神発達正常は8名、境界2名、精神遅滞3名であった。精神発達正常8名中、運動面については、正常3名、微細運動障害5名であった。同じく、精神発達正常8名中、神経心理学的側面(行動)については、正常4名、構音障害2名、視空間認知障害3名、聴覚認知障害2名、ADHD(注意集中困難・多動症候群)2名であった(一部重複あり)。以下、精神発達境界、精神遅滞については表1に示す通りである。

運動面については、正常3名、微細運動障害9名、脳性麻痺1名であった。行動面(神経心理)については、正常4名、構音障害43名、視空間認知障害7名、聴覚認知障害7名・ADHD4名であった。